

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100253		
法人名	一般財団法人 弘潤会		
事業所名	グループホームほのぼの天満		
所在地	宮崎市谷川3-1-2		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天神山の下の高台にあり、春には天神山の満開の桜が見えます。夏には宮崎市の納涼花火大会が2階の居室より綺麗に見えます。地域との交流も盛んで自治会に加入し、自治公民館で開かれるニコニコサロンへの参加や、地域の夏祭りでは神輿や獅子舞が事業所まで来るなど充実しています。事業所内のケアに限定せず、傾聴ボランティア、近隣保育園との交流等地域に開かれた事業所を目指しています。法人内の多職種も充実しており日々連携を取り、利用者だけでなくご家族にも安心して頂くために、さまざまなニーズに応える環境作りを徹底し、思いやりと尊敬の気持ちを持ち支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜の名所である天神山が隣にあり、高台に位置した二階建ての建物である。見晴が良く、春は桜、夏は花火と入居者は季節の風物詩を楽しんでいる。ホームは自治会との繋がりを大切にしており、催し物の案内を参考に可能な範囲で参加している。今年度はコロナ禍で大半の行事が中止となったが、それ以前は地域の保育園との交流や自治会活動の協力など地域の中にあるホームとして認知されている。また、認知症対応型デイサービスを開設しており、地域で暮らす高齢者の受け皿としての機能も果たしている。系列医療法人のバックアップもあり、重度化や看取りへの対応、各専門職種とのモニタリングなど医療との連携がとりやすい環境にある。職員間では意見交換を活発に行い、小さな変化や言葉を記録することでよりよい支援に繋がるよう職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関及び2階詰め所、事務所に掲示してあり職員は目を通し実践に取り組んでいる。	職員が常に目にする場所に理念の掲示を行っている。職員会議の中で理念の確認を行ない、個々の実践に繋げている。しかし作成から5年が経過しており、見直しがされていない。	理念の振り返りを行い、ケアに反映されるよう取り組みを行っているが、理念作成から5年が経過しており、現状を踏まえた理念を作成し実践に繋げる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回コロナの影響であまり交流できていない。7月は自治公民館で行われた七夕飾りに参加できた。	自治会に加入している。催し物の案内を届けてもらい可能な限り参加している。コロナ禍で多くの行事が中止となったが、七夕飾りに入居者と参加するなど地域の一員としての交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別ケアにて散歩など行って、積極的にあいさつに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月よりコロナ感染予防対策の為に中止している。ご家族には状況、報告など電話などでおこなっている。要望や意見あれば都度伺える体制は整えている。	これまで自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センターの参加で実施していたが、今年度はコロナの流行により実施できていない。主に書面や電話での報告となっている。出された意見への対応も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ファックスにて事業所の取り組み実情などの調査依頼に回答している。	市との連携ではコロナ対応でのアンケートやマスクなどの支給に関わる事が今年度は多くあった。それ以外の対応に関する疑問点などは法人本部にあげ一括して市に問い合わせを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる具体的禁止行為など職員会議にて勉強会を実施し理解できている。玄関はオートロック式であり、脱衣所、台所裏にある勝手口にはチェーン式鍵を取り付けている。	毎月の職員会の中で取り上げ、身体拘束に対する意識の統一を図っている。スピークロックが問題としてあげられ、職員間で注意しあうこともある。外に行きたがる入居者に対しては、本人の興味のあることに関心を向けるよう対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間にて日々意識付けを徹底し、見過ごされることのないようその都度注意し合える関係性ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度利用中の方が入所している。ほとんどの職員が研修の機会があれば参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用い同意を得ている。また不安や疑問があればその都度説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが上手く活用できていない。面会や電話などで意見や要望などを伺うことはできている。	運営推進会議後に家族会を行っている。参加した家族のみで進行し、上げられた意見は職員に伝えて頂いている。支援に関する内容が多く、職員間で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を出し合ったり、職員個々に管理者へ直接意見を貰える事もあるので、業務内容の変更などを検討し反映することができている。	人事考課のため本部部長とはリモート面談を行い、管理者は直接職員の意見や要望を聞いている。また、日常的に意見の言いやすい環境にあり、職員会議での協議も活発に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で、努力や実績を評価し給料に反映している。労働時間や希望休などできるだけ希望に添えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今回、研修を受ける機会がコロナ感染予防にて行えていないが、働きながら支援の方法など職員間にて共有し良い環境を作り実践できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修に参加している。系列の他施設の状況を常に把握でき、共有しより良いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や申し込み時に、予めご家族に情報を頂き、本人様が不快で不安な思いにならないよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今現在の不安、今後の要望などしっかりと話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める事と、ご家族の要望に添える支援ができるよう努めている。家族の要望により医療系のデイサービスに行かれている利用者がいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別ケアの時間を設け、良好な関係が築けるよう努めている。また暮らしを共にの観点から役割分担にて家事のお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能なご家族には、病院受診に同行して頂いている。介護度が高くなった利用者にはご家族におむつの種類変更や車椅子の使用など提案し一緒に話し合ってきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の方より電話取り継ぎを行なっている。馴染みの場所は感染予防対策にて行っていない。	コロナ禍で昨年まで行っていた個別対応が難しくなっている。今年度は年賀状や手紙を出したり、電話やメールの活用や回想法の実施など、これまで馴染んできたことを維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ食卓にて感染予防対策しながら食事したり、独歩の方が車椅子使用している方へ声掛けに行くなど良好な関係が保てている。またその際も見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでは契約終了が稀ではある。退所後などもフォローができるようまた支援ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や本人の思いを聞き、それを元に支援を行なっている。センター方式を活用している。	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」の24時間シートを使用して入居者の思いや意向の把握をしている。入居者の言動を大切に考えて記録し、職員間で共有することで支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院していた方は、基本情報やサマリーを用いて把握に努めている。本人への聞き取りや家族からの情報にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医師・看護師・セラピスト・介護職と連携を図り、それぞれの視点から利用者を観察し状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・看護師・セラピスト・介護職の思いや意見を反映し、利用者に応じたケアプランを作成している。	入居者、家族からの要望を聞き、各関係職種からの意見も取り入れ介護計画を作成している。毎月の職員会の中で全体に周知し、意見をもらうことで現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、できるだけ詳細に書くように取り組んでいる。特別な情報はすべての職員が共有できるよう申し送りノートの活用をおこなっている。介護記録・ケアプランはいつでも見れるように綴っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望に応じて、医療系認知症デイに通われてる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会より行事案内の回覧をもらい、参加できる行事には参加している。傾聴ボランティアを受け入れ、職員だけの支援にとどまらず地域住民とともに支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、適切な医療につながるように配慮に努めている。利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。	入所時に協力医への変更を依頼するが、これまでのかかりつけ医を希望される方は継続してもらっている。系列法人の医療との連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常において変化があれば状況報告し指示を仰いでいる。週1の訪問看護の際には健康面の注意点や処置の指導・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護・介護サマリーの提出に努め、医療機関に本人の状態・情報を詳しく伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・訪問看護・かかりつけ医と十分に話し合いの場を持ち、以降は連携を図り見取り体制を整えている。	入居時に「看取りに関する指針」を説明している。本人家族の要望を踏まえ、医療との連携を取りながら看取りの体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置がある。使用に関しては施設内研修を行ない、実践力を身につけている。定期的には行っていないので月1の職員会議などを利用し今以上に実践力を身につけられるよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風時には、避難場所の確保をした。(系列の病院)法人内の連携は図れている。非常用備蓄も定期的に確認している。	夜間の対応も含めて年2回の避難訓練を実施している。法人間の連携も出来ているが、ホームは高台にあるため実際の避難体制が適切なものになっているかの検討が十分ではない。	大きな災害が頻発しており、より具体的な災害への対応が必要になっている。消防署や地域との連携を図り、実践的な避難体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応が悪い時は、職員同士その場で注意し合える関係作りに努めている。	入居者への声かけでは指示的にならず、本人の意欲が引き出せるような言葉がけを行っている。トイレへの誘導時も耳元でゆっくり声かけを行うなどプライバシーを損ねない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や仕草から思いを汲み取れるよう心掛けている。声掛けに拒否見られるときは、せかすことなく利用者のペースに合わせ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否のある際は、時間や曜日を変更し、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定される方には、その日に着る洋服をご自身で選んで頂いている。起床時にはご家族に持ってきて頂いた化粧水やクリームなど使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗洗いや台拭き等職員と一緒にしている。調理においてもきゅうりのスライスや盛り付けなど一緒にしている。	職員が入居者の希望を取り入れ食事を作っている。コロナの影響で食卓にはアクリルボードを設置し安全面への配慮がされている。気候の良い時には中庭で食事やお茶会をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理を行ない、著しく増加が見られる方は医師に相談し助言受けている。食事以外の時間にも水分補給の時間を午前・午後に設け支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。利用者個々に合わせケアスポンジやケアシートを使用し支援している。また歯間ブラシ舌ブラシを活用し磨き直しの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行なっている。立位困難な方も職員2名介助にてトイレ座位をして頂き自排泄支援をしている。	排泄チェック表から排泄のパターンを把握し、日中のトイレ誘導を行っている。入居時リハビリパンツを使用していた方が布パンツに移行するなど排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールがうまくできない利用者には、訪問診療時に医師に相談下剤の使用で便秘にならないよう支援している。個別ケアにて運動への働きかけもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は事前に決めているが、拒否のある場合は無理強いせず、時間をずらしたり曜日を変更したり柔軟に対応している。	浴室が埋め込み式の浴槽のため、足浴をしながらシャワー浴を実施する入居者が多くなっている。入浴日は柔軟に対応できるよう個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠傾向の方、また前日不眠の方など情報を共有し、和室やベットにて臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルがいつでも確認できるようにしている。薬変更や追加の場合は様子観察を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアにて、鉢植えしたり、ドライブしたりと支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望に応じ外出や外食に行かれる利用者もいる。	コロナ禍での外出や外部の方との交流が難しいが、個別ケアでの散歩や中庭での食事会など外で過ごす時間を設けている。家族の協力で外出を楽しまれている方もおり、現状の中で出来る範囲での取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持たれてる利用者もいるが家族の了承のもと管理までは行っていない。お金を所持している利用者はいない。必要な時は施設にて立て替え家族に請求する形を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける利用者はいないが、家族より電話あった際は取り継ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙作りを共にし季節感が感じられるようになってきている。また月ごとに利用者に塗り絵をして頂き出来上がりを掲示している。	食事室と談話室がわけてあり、それぞれに畳のスペースを設け、入居者がくつろげる空間になっている。入居者の作品やなつかしいポスターの掲示がされている。目の前にひろがる天神山の風景で季節感を感じることもできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で過ごされる方や、気の合う利用者同士、席を隣にしたり、またトラブルのある利用者同士は席を離したり、その際の状況に応じて臨機応変に対応できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、家具・寝具・テレビなどを持ち込み可能としている。また家族との写真や好きな歌手の写真を飾られている方もいる。	二階に入居者の居室があり、畳とフローリングの部屋がある。それぞれ好みのタンスや寝具を持ち込み、個々の好みの飾り付けがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁やドアに張り紙をし、場所が分かるように工夫している。		